

平成18年度 第2回 安曇野市環境審議会 会議概要

【日 時】 平成19年3月27日(火) 午後1時30分～4時

【場 所】 穂高総合支所 第3会議室

【出席者】 委員12名(6名欠席)

事務局5名

環境基本計画策定委員会正副会長3名

【進行表】

1. 会長あいさつ

2. 議事

(1) 前回議事録の確認

(2) 環境基本計画の策定経過及び今後の日程について

(3) 平成19年度一般廃棄物処理計画について

(4) その他

【議 事】

1. 前回議事録の確認について

→承認

2. 環境基本計画の策定経過及び今後の日程について

(事務局) ・平成18年度策定の経過と平成19年度スケジュールを説明

・平成18年度に実施したアンケート調査結果の概要説明

(策定委員会会長) 前回報告から3ヶ月だが、現在も議論中であまり報告することはない。

施策体系イメージ図にあるとおり、それぞれのテーマを設定し、課題、原因要因、方向性にもつぱら議論を集中しているといった状況。

委員会開催時以外でも、分科会を開催し議論している。生みの苦しみの最中。

6月に素々案を作成するための通り道と考えている。

(策定委員会副会長)

この秋の素案完成に向けて検討中であるが、この基本計画を策定していることを知らない市民が多い。

大勢の市民に関心を持ってもらうために、環境フェアーを秋の開催に向けて検討を行っているが、それだけではなく2ヶ月に一回のペースで市民が関心を持てるようなイベントを開催していく。その一環で「生き物調査」を実施する。

これは、現在の安曇野の生き物調査をして、それが10年20年先にどう変わるかを調査していきたい。そのために幅広く市民の協力を得たい。

4月21日にあづみの国営公園で説明会を行い、(配布通知のとおり)大勢の人に自然や生き物に関わってもらい、環境基本計画に関心をもってもらいたいと考えている。

【質疑応答】

(委員) 計画策定にあたっては、課題を平たく処理するのではなく、優先度・メリハリをつけて、何から手をつけていけばいいのか明らかになるような計画にしてほしい。

(委員) アンケート結果を見ると「北アルプスの風景」はみんながいいと言っているが、ゴミが落ちている。これがなくなるような計画にしてほしい。

生物調査は大変いいことだと思う。学校や育成会等、多くの人に声をかけてがんばってやってほしい。

(委員) アンケートの概要はこの資料でわかるが、市民の生の声(記述式回答)の内容について知りたい。

(事務局) 審議委員さんになるべく早く、記述式回答を集約したものを送付させていただきたい。

- (委員) スケジュール表の中に幹事会、庁内調整会議というのがあるが、詳しい内容を聞きたい。
- (事務局) 幹事会は策定委員会の正副会長と分科会座長がメンバーとなり、委員会運営方針を決めている。
庁内調整会議は、庁内の環境に特に関係する課の係長13名で構成し、12月に発足した。基本方針や素案について検討した委員との質疑を行うために設けた組織。
- (策定委員会会長) 幹事会では、4つの分科会間の調整(議論に重複や空白の部分が発生しないため)を行っている。
- (策定委員会副会長) 庁内調整会議は、策定委員会と早い時期から話し合うことが必要だ
委員が理想を出しあい原案を作成した後に、職員が「そんなことはできないよ」では困る。早いうちから職員と議論していかなくてはならない。
これについて、審議会委員も策定委員にバックアップしてほしい。
- (委員) そのとおり、庁内調整会議が一番のポイントと考える。
- (事務局) 具体的な目標値を決めてやる必要がある。その目標値が10年の間に本当にできるのか、どこまでできるのか、予算がどのくらい必要か、これから充分議論していくことが重要。
- (委員) 今、一番重要なのは環境問題、経済より先に環境問題、どうしたら環境を守れるか、そのためには何をしなければならないか、何を優先しなければならないかを決めていかなければならないと考えている。
- (委員) 安曇野といえば「田園風景」だが、この分科会資料によると、あまり言葉として出ていないような気がするが・・・。
- (策定委員会副会長) 自然分科会では、田園や果樹園等は里地という括りの中にももちろん入っている。
水田関係は農業分科会でやるべきだということでそちらでも議論している。もっとわかりやすく計画としていきたい。
- (策定委員会会長) 農業分科会の中でも田園を重視している。また景観まちづくり分科会の中でも議論されている。
- (策定委員会副会長) 景観まちづくり分科会でも田園風景について検討をしている。その中でも田園は重要だということで議論してされている。
- (委員) アンケート集計結果がここに配られているが・・・。このアンケートは個人名で送付されるが、その送付された個人ではなく、家族が記入するケースがあるが・・・結果に影響はないか?(特に年代別集計や男女別集計)
- (策定委員会副会長) こちらとしては無作為抽出で個人名にて送付している。
20代の回答が少ないのは、興味がなく回答率が低いと思われる
- (事務局) 18歳以上、2000名に無作為抽出により個人名で送付して、回答いただいているので、本人以外の方が書いたかどうかまで何とも言えない。
全体的な意識調査としては、二次集計結果を見てもらいたい
- (委員) 今回の会議資料が送られてきたの2日前、目を通すのに非常に時間が係る資料なのでもっと早めに資料を送付してほしい。
- (事務局) これからはもっと早く資料を発送できるようにします。
- (会長) この環境基本計画を策定することは大変なことと思います。10月までにまとめるのは、至難の業ではないかと思いますが、何とかがんばってまとめていただきたい。
策定委員のみなさん、よろしくお願いします。

3. 平成19年度一般廃棄物処理計画について

- (事務局) 資料により計画を説明
- ・ごみ処理計画
 - ・資源分別収集処理計画
 - ・し尿処理計画
 - ・生活雑排水等処理計画
 - ・一般廃棄物の自己処理基準

質疑

- (委員) 堀金地域が人口の割には、可燃ごみの排出量が少ない。これは農家が多いためと思われるどうか。
また逆にプラスチック類が多い、分別をしっかりとやっているということなのか?

- (事務局) 確かに可燃ゴミは堀金地域(年間1人当110kg前後)は、重量の多い生ごみ等が少ないためではないか、合併前から一番少なかった。次は豊科地域(年間1人当135kg前後)だが、ごみを減らす指導が徹底されていたためと思われる。三郷・明科地区は年間1人当140kg前後。穂高地域(年間1人当145kg前後)が一番多いが、観光客や別荘地のごみが多いためと思う。
プラスチック類が多い原因は、定かではないが、スーパーでのトレイ等店頭回収が豊科や穂高に比べて少ないことも原因になっているかもしれない。また原因を探してみたい。
- (委員) 今年度より「白トレイの店頭回収を奨励する」とあるが、どういうことか?
- (事務局) トレイ業者のほうの回収ルートはかなりしっかりとしている、基本的には、購入した場所へ回収に出すのが原則。
事情で出せない場合は、プラとして出してもらおう。
- (委員) 市の最終(埋立)処分場の計画の進み具合はどうなっているのか?
- (事務局) 自分の所で出たものは、自分の所で片付けるのが基本的方針。
穂高広域では10t/日の灰が出るが、今は中野市の民間最終処分場に処理を依頼している。
地域内で処理するために、検討委員会が発足し、検討中。
2年にわたる検討委員会の最終が3月29日に開催され、結果が出る予定。
- (委員) 燃えるごみのなかのポリエチレンはどうなったか?
- (事務局) 資源ごみとして、洗ったきれいなものしかプラとして再生処理できない。
汚れているものは、可燃ごみとして処理されている。
- (議員) 下水道の接続率は、現在どのくらいか?
- (事務局) 下水道が整備されて3年以内の接続が義務づけられているが、3年過ぎて接続されていない率はどのくらいか、またそのような所にはどのような指導をしているか。
接続率と整備率については、後で調べて報告する。
3年以内は下水道法で定められている。下水工事を始める前に関係住民には話している。そうは言っても、事情のある家もあり、強制的につなげるわけにはいかない部分もあり、担当課では接続するための啓発を推進している。
- (委員) 3年以上接続していない家の個々の事情は把握しているのか?
- (事務局) 工事を始めるときは、工事届を出してもらっているし、料金徴収もあるので、どのうちは把握している。そのうち、事情についても把握しているところもあるが、事情が把握できなくて、未接続のところもある。
- (委員) その事情を把握していないところをどう指導しているのか?
- (事務局) パンフレットを配るなり、説得するなり、普及活動を行っている。
- (事務局) 3年経過していないところについては、市で生活雑排水汲み取り料の補助を行っているが、3年を経過したところ(告示した地区)は、補助をしていない。
これは平成18年4月から市内全域で実施している。
- (委員) 河川の汚れを心配している。なぜ冬場の水のない時期に水がヌルヌルしているか。それを調べてほしい。風呂水を垂れ流しているところがあるのではないか。
- (事務局) 生活雑排水処理の管理をしっかりとっていないところもあるかもしれない。
今後、広報等で啓発していきたい。
- (事務局) 下水道担当と連携をとっていきたい。
- (委員) 処理場の処理場排水は処理されているかのチェックはしているのか。
- (事務局) 安曇野流域最終処理場の放流水は全てチェックしている。公表もしている。
- (委員) 下水道整備されても河川がきれいにならないのはどうしてか。
市で行っている河川水質検査結果は公開されているのか。
- (事務局) 平成19年度で過去のデータを全て集計する予算をとったので、まとめたものを公開していく。
合併前は、河川水質検査を実施していない地域もあったが、18年度から市内全域で検査を実施している。
- (委員) その結果を市民の目に触れるようにしてもらいたい。水質に問題があるのか、ないのか、きれいになっているのか、わかるようにしてほしい。

- (事務局) 先ほどの質問の下水道整備率ですが、平成17年度末で68%、この整備されたうち、水洗化率(接続率)は76%です。
下水道整備率は市全体でみると、穂高地域を除くところは、100%に近づいてきている。穂高地域はH26に100%となる
- (委員) 下水道事業について、昔読んだ本に、農村にはコストが高く不向きと書いてあった。農村部の下水道整備は、コストと有効性を考えてやってほしい、また住民説明も詳細にしてほしい。
松本市に比較して、受益者負担が高い。下水道は本当に正しい選択か?
- (事務局) 離れたところはある家は、合併浄化槽にしてもらうような指導をしている。ただ排水等の関係があり、合併浄化槽対応できず下水道対応しているところもある。下水道は、公共や農集排等行政の縦割りに弊害があったこと事実。費用対効果を考えて社会資本投資をして、市民が水洗化された生活を送ることが重要。
- (委員) 先ほどの下水道整備率の件ですが、認可区域内の数字ではなく、市内全戸からみるとどのような数値になるのか?
合併浄化槽をやる地域はどのくらいの割合なのか?
次回までに教えてほしい。
新たに開発されてきた浄化槽があるが、そういうものが認可を受けられればいい。
- (委員) 野焼きの基準が徹底されていないように思うが・・・
- (事務局) 法第16条以外野焼きは禁止されている。
全戸配布されたガイドブックに詳細が掲載されている。
- (委員) このガイドブックの書き方は、どうにでも解釈できるような表現になっているのでは・・・
- (委員) ダイオキシシンが出ない焼却炉って・・・
- (事務局) 木工関係者等の購入・使用が多い。助燃装置がついて温度が800℃に保てるようになっている。1基200万円以上する。
- (委員) ごみの手引きに野焼きの件もせてほしい。
- (事務局) 野焼きの苦情に関しては、職員がすぐ現場へ駆けつけ、両者の話を聞いて円満に解決できるよう対応している。
- (会長) 平成19年度一般廃棄物処理計画をお認めいただけるか。
(全委員) 意義なし。

4. その他

- (事務局) ・穂高広域NEDO事業についての最近の現況報告
・3月24日夕方SBCで、NEDO事業と三郷生ごみ堆肥化について放映があった。
それを録画したDVDを希望される委員は、事務局まで申し出ください。
- (事務局) これから審議会は、6月・9月・・・と開催される予定である。
視察希望があれば、計画したい。委員の意見要望をお聞かせいただきたい。
- (事務局) 次回審議会時、NEDO事業のプラントを視察したらどうか。
- (委員) 委員任期中には、市内の関係施設を全て見れるような計画をしてほしい。
- (委員) ごみのフリーダイヤルはもっと早い時間から開設できないか。
- (事務局) 物理的に難しい。
- (委員) 環境基本計画策定イベントについては、広報紙だけでなく、いろいろな方法で早めにPRすることが大事だと思う。
子供を動員するなら、育成会等の団体に声をかけていけばいいのでは・・・
- (会長) これで閉会とします。